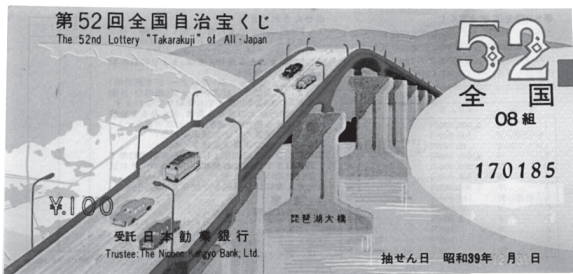


宝くじ おもしろ話

今は昔。宝くじ券図柄の
伝説的な「うっかりミス」

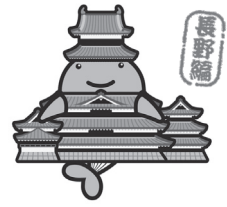
日本の宝くじ券の図柄は「美しい」と海外で評判とか。そして、日本の宝くじファンの中にも図柄の美しさゆえ「捨てるのが惜しい」といって宝くじ券を収集している人も多い。

こうした評判の裏に、宝くじ券の絵柄を描



くデザイナーの苦労がある。タテ7cm×横15cmという小さな画面に描く宝くじの「顔」ともいべき図柄だ。製作上、守るべき制約はあるが、基本的な注意事項として図柄の「正確さ」がある。だが、ときに「うっかり」が生じる。ここに紹介するのも、その1つだ。

昭和35年12月21日発売の「第52回全国自治宝くじ」(写真)でのことだ。図柄は同年9月28日に開通した「琵琶湖大橋」だ。琵琶湖を挟んで西側・堅田と東側・守山をつなぐ長さ1.4kmの大橋で、双方向が別々に構築され、各2車線ずつ、合計4車線。券面を見ると、橋上の2車線道路の「両側」に街路灯がズラリと並んでいる。しかし、実際は車が走る方向の「右側」にしか街路灯はない。これは、よほど注意しないと…ですよ。



ご当地クーちゃん
松本城クーちゃん

宝くじ おもしろ話

抽せん会にドラマあり！
「前後賞」のあれこれ

宝くじの抽せん会では抽せん開始を前に、これから抽せんする宝くじの内容説明とともに、抽せん実施上の「約束ごと」が必ず説明される。その約束ごとの1つに当せん番号の「前後賞」についての説明がある。例えば「1等の前後賞」についての説明だと。

「1等の前後賞とは、1等と同じ組の前後の番号といたします。なお、10万番の前の番号は199,999番とし、199,999番の後の番号は10万番といたします」となっている。

以上で、明快に説明されているが、あと少

し丁寧に説明を加えるなら…。「100,000番の後の番号は100,001番で、199,999番の前の番号は199,998番」といってほしいところだ。

ところで、75年余の宝くじの歴史を通して、前後賞がついている当せん番号で、現実にかうしたことが起きたことがあるかという「ない」。だが、たった一度「惜しい！あとちょっと」といったことがある。

それは第1835回関東・中部・東北自治宝くじでのことだ。1等は500万円で1等の前後賞として各30万円がついていた。抽せん会で1等当せん番号は「46組100002番」と決定。その結果、1等の前賞は「46組100001番」に…。いかにも「残念！」でしょう。



ご当地クーちゃん
花笠まつりクーちゃん

宝くじ おもしろ話

宝くじ・4分の3世紀の 歴史を語る「5つの聖地」

「宝くじ」の前身「勝札」が発売されたのは昭和20年7月。いまから76年前だが、宝くじの歴史上で「聖地」ともいえる場所がある。その代表的な場所を5つあげてみた。

◎旧・日本勧業銀行本店（東京都千代田区内幸町）＝昭和20年6月に大蔵省は宝くじの前身「勝札（かちふだ）」の発売を決定し、発行業務を日本勧業銀行に命令。同行本店にある戦時貯蓄部が担当。第1回「勝札」を同年7月16日に発売した。

◎旧・日本勧業銀行長野支店（長野県長野市。現在は長野県労働金庫本店）＝昭和20年8月の終戦間際に戦時貯蓄部は同行長野支店へ疎開。15日に終戦。抽せん日は25日。長野支店で予定通り開催した。

◎三越・日本橋本店（東京都中央区日本橋）

＝第1回「宝籤」が発売されたのは昭和20年10月29日。その抽せん会は11月13日に東京・日本橋の三越本店1階の踊り場で開催。新聞報道では6,000人の観客が集まったとか。

◎日本劇場（東京都中央区有楽町）＝JR有楽町駅近くに昭和8年竣工、同56年2月閉館した大劇場（現在は有楽町センタービル＝愛称・有楽町マリオン）。ここで宝くじの抽せん会が何回も開催された。中でも記念すべきは同29年3月31日に開催された政府発売の最後の宝くじ「3月宝くじ」の抽せん会だ。

◎日劇前宝くじチャンスセンター（東京都中央区有楽町）＝有楽町・日本劇場前の晴海通り沿いに「日劇前宝くじチャンスセンター」が昭和35年11月に開店。シャレた作りで宝くじの代表的な売り場として注目された。しかし、日本劇場の閉鎖にともない同56年2月閉店。近くに西銀座デパートチャンスセンターを新規開店して業務を受け継いだ。



ご当地クーちゃん
さるぼぼクーちゃん